

日本神話『高千穂 天岩戸』と 九州観光列車に乗る熊本復興の旅



(真名井の滝)

古事記や日本書紀に見られる日本神話の物語は今では語られる機会が少なくなってきたように感じられます。「真名井の滝」は天孫降臨の時に天村雲命(あめのむらくものみこと)が天から水種を移した真名井という井戸の水が滝となって流れていると語られるもので「日本の滝百選」の一つです。宮崎県高千穂市にありますが、この神話の里をかわきりにして大河ドラマ「西郷どん」の鹿児島まで、熊本・宮崎・鹿児島の南九州三県を巡ります。さあ、一緒に出かけましょう！

第1日目

羽田空港⇒熊本空港(熊本県)→ホテル高千穂(宮崎県 昼食)→真名井の滝→天岩戸神社→通潤橋(熊本県)→人吉温泉(熊本県)

【 羽田空港⇒熊本空港 】



(全日本空輸 ボーイング767-300)



(日本航空 ボーイング767-300)

行き先が南九州と遠いため航空機を使用します。全日本空輸641便、8時20分発、熊本空港10時05分着ですから所要時間1時間45分です。

5班と9班(6月7日ご出発及び6月21日ご出発)は日本航空625便、午前8時ちょうど発、熊本空港到着は9時55分で所要時間1時間55分の予定です。

どの班もお客様の集合はご出発の1時間前になるでしょう。使用機材はボーイングの中型双発機767-300になる予定です。



(写真は中型バスです。本番は人数により大型のバスを使用します。)

熊本空港からは霧島観光交通株式会社のバスでご案内いたします。阿蘇外輪山の中の村々を越えて神話の里、高千穂に向かいます。

【 高千穂 】(宮崎県 高千穂市)(高千穂牛のクワ焼きの昼食)

高千穂に着くともうお昼の時間になります。お隣の宮崎県まで走ってきました。気温も熊本とは違って涼しく感じます。「ホテル高千穂」を目指します。



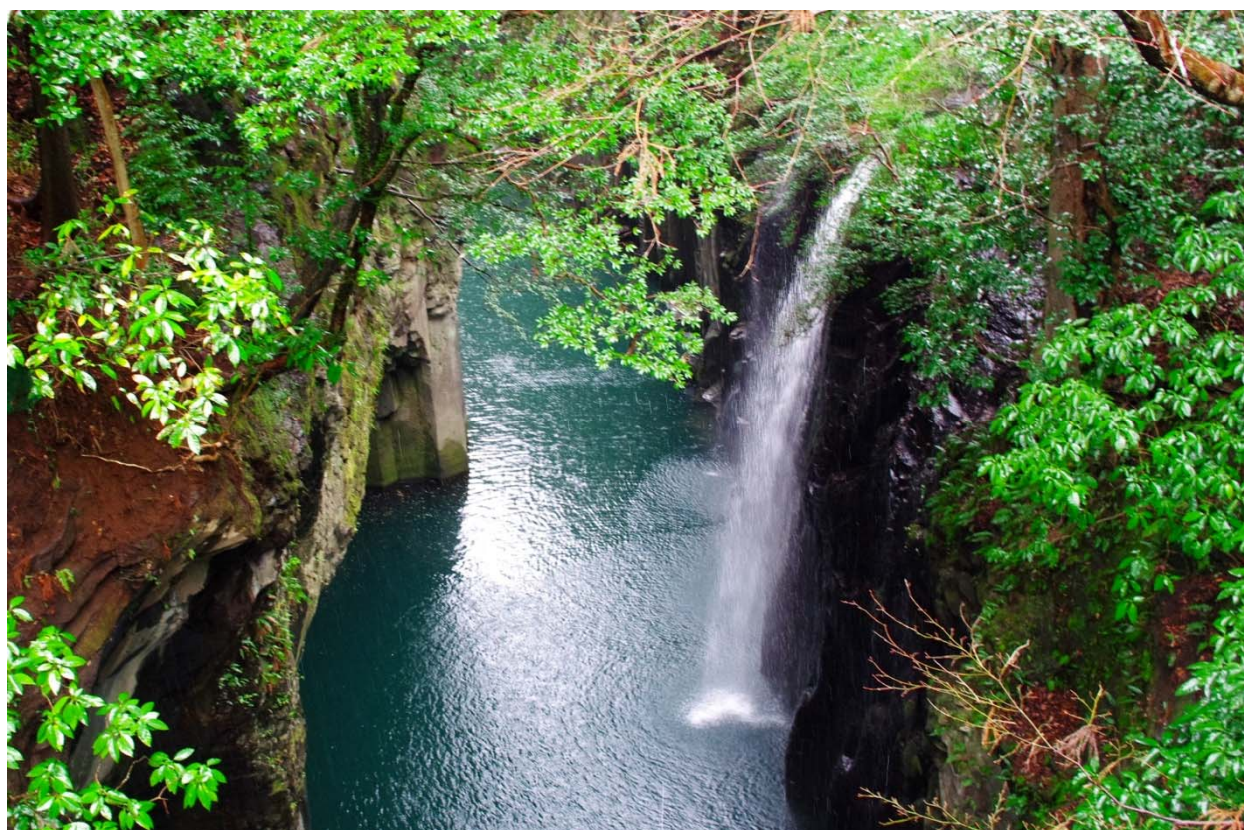
腹が減っては観光はできませんから、早速の昼食です。高千穂では地元の高千穂牛という美味しい牛肉があります。これをクワ焼きで食べます。



高千穂が発祥の「かつぽ酒」は竹筒でお燗した焼酎です。「かつぽ」は高千穂方言で竹のことなんです。お酒を入れて竹筒を焼きます。下の方が焦げていますが、この竹筒で注ぐと本当に「かつぽ、かつぽ」と音がします。竹の風味が独特です。お試しください。



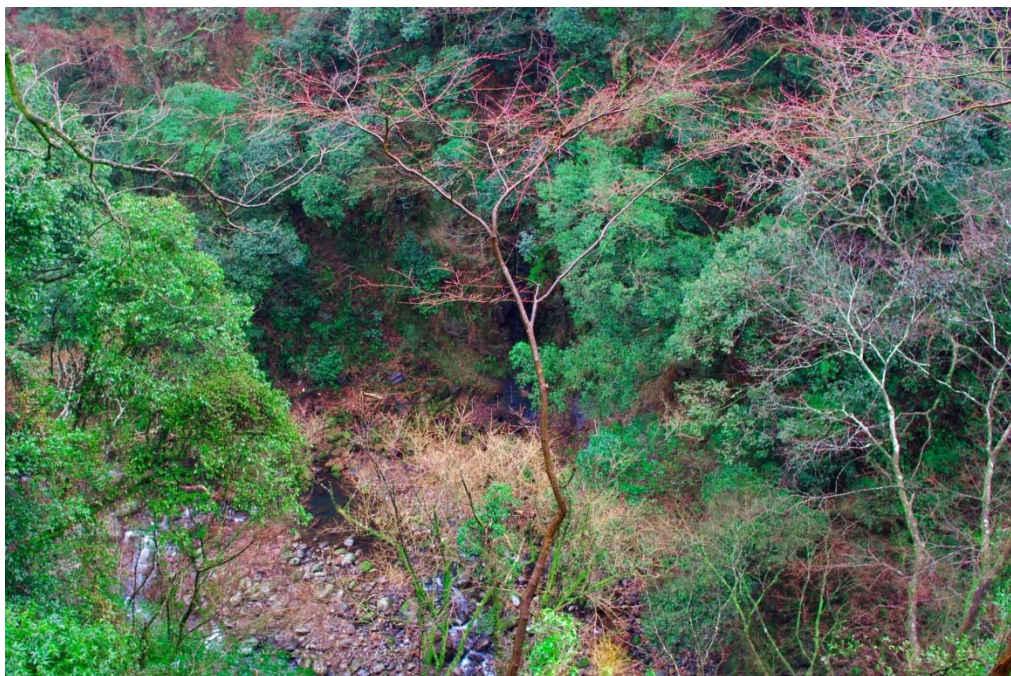
高千穂は深い山々に囲まれ「神話のふるさと」と呼ばれます。家々には一年中しめ縄が張られ信仰の篤い土地柄とか。山の中の移動で観光バスが入れないのですが、高千穂ホテルのマイクロバスとタクシー利用でできるだけお身体に優しくご案内します。



真名井の滝です。展望ポイントがいくつかありますが、この写真は一番近いところから見えています。天孫降臨の時に日本の国に水種が無いことを嘆いた天村雲命が高天原から水種を移したという話が素直に聞けるような場所です。



天岩戸神社西本宮です。ここから対岸の天岩戸を参拝します。専用の参拝所があります。天岩戸は参拝所の真正面にあって、木々に覆われています。撮影禁止でした。ご紹介できず残念です。



これは天岩戸ではありませんが、なんとか雰囲気をお伝えしたくて撮りました。西本宮手前下流側の撮影可能ポイントです。川を挟んだ向かい側に崖があり、画面中央ですが、木の枝の向こうに洞窟が見える、というイメージです。ぜひ実物をご覧ください。



天安河原です。画面後ろに高さのある洞窟が広がっており、横に鳥居があります。ケルンがたくさん積んであり、まるで天照大神を地上に引き戻すために八百万の神々が集まって相談しているようです。前方に川が流れています。

洞窟がありますのでここが天岩戸と思っていましたが、違いました。ここは天岩戸から上流側に150メートルほどのところにあります。河原に降りると道はかなり険しく、画面右下に赤いロープが張ってあるのが見えますが、それが確かに必要なと思えるほどの少し危ない道です。また帰り道は登りになりますから調査でも時間内に帰って来る事が出来ませんでした。健脚な方以外は難しいかもしれません。

【 通潤橋 】（熊本県山都町）



写真の橋のように見える部分が通潤橋です。農業用水の水路の橋です。水路の掃除の為に、アーチ真ん中に見える黒い部分から放水するのが見どころだったのですが、熊本地震のせいで壊れ、現在修理中です。今年中に再び水が流れるようになるとのことですが残念ながら本旅行には間に合いません。トイレ休憩として立ち寄ります。ここは道の駅になっていましてお土産も買えますが、熊本県に入っていますので熊本のお土産になります。

【 人吉温泉 あゆの里 】（熊本県人吉市）



熊本県人吉温泉の「清流山水花 あゆの里」です。人吉温泉は東京から見ると特に有名というのではないのですが実は熊本県一の評判があります。女将の有村政代さんのお話を聞くと「自分が泊まりたくなる旅館を作りたい。」ということが目標だったそうです。また人吉という土地は、700年の間相良氏だけが治めてきたという日本でも珍しい土地柄で、人がとても優しいのを感じます。球磨焼酎の生産地でもあります。





夕食です。

(時期により食材が変わる可能性がありますのでご承知置き下さい。)





客室と、部屋からの球磨川・人吉の眺めです。



露天風呂付き温泉があります。こちらは3階の大浴場「山並みの湯屋」です。男女入れ替え制で女性が11:00～24:00、男性が5:30～10:00です。



5階の「蔵の湯殿」です。こちらは男性が11:00～24:00、女性が5:30～10:00です。どちらも泉質は塩化物・炭酸水素塩泉、とろっとしたお肌に優しいお湯です。効用は美肌効果のほか、神経痛・筋肉痛・関節痛・五十肩・打ち身・くじき・慢性消化器疾患・冷え性・動脈硬化と言われています。

第2日目

人吉温泉 あゆの里→青井阿蘇神社→熊本城→城見櫓(昼食)→水前寺成趣園→熊本駅→JR九州観光列車(「かわせみ・やませみ」又は「いさぶろう・しんぺい」)(鹿児島県に入ります)→奄美の里(夕食)→城山ホテル鹿児島(宿泊) 【班によって訪問順・列車に違いがあります】

2日目の行程は班によって訪問順や乗車する列車に違いがありますので、主な訪問先を項目別にお話していきます。

【 熊本城 】

熊本観光と言ったら、熊本城は外せないのです。加藤清政が築城していますし、西南戦争で西郷軍を押しとどめたのも熊本城です。熊本県民の心の奥深くの象徴、支えと言っても過言ではないくらいです。そこを熊本地震が襲いました。わいわい伺って良いものかどうか、本当のところを調べました。質問した限りの全ての人がぜひ見に来て欲しいとおっしゃいます。「何が起こったのか、どう復興しているのか、今しか見られません」と。



熊本城の入り口の櫓は傾いて、更にねじれていました。この落ちた石、ねじれた建物、倒れた塀はここに行って実際に見てみないと実感できないでしょう。残念ながら写真では何分の一かすら伝わらない

と思います。道路に転がっている大きな石にはみんな番号がふってあります。元に戻す取組が始まっているのです。



写真右端の足場に囲まれている部分が熊本城本丸です。一番左の小さな櫓が2本の支柱を持つ大きなパレットの上に乗っているのがお分かりになりますか？櫓全体を浮かせてその下に足場を組み石垣の修復を行っているんです。持ち上げる技術、凄いですね～。見てみると力が湧いてきますね。これは見に行かなければいけません。

【 城見櫓 】（馬刺しの昼食）

熊本城の外堀からすぐのところに熊本郷土料理の「城見櫓」があります。



（時期により食材が変わる可能性がありますのでご承知置き下さい。）

熊本郷土料理と言えば、辛子蓮根が思い浮かびます。「一文字のぐるぐる」はワケギを巻いたもの、味噌田楽などがありますが、熊本のおもてなし料理の代表格は「馬刺し」だそうです。熊本に行って「馬刺し」が出たら、その家にとって自分は重要な客だと思え、というのが地元の基準とか。では、是非にも食べなきゃいけません。

【 JR 九州観光列車 】



(かわせみ)



(やませみ)



(いさぶろう・しんぺい)

JR 九州には特別編成の観光列車があります。日本全国に向けてかなりの人気です。今回訪問する熊本と鹿児島の間には肥薩線が走っていて、電化されていないので電気の架線がなく、車両がスッキリ見えることから更に人気に拍車がかかり、地元の人さえ乗れない、チケットが取れない状態になっています。ところが採算は苦しく、JR 九州はこれまでワンマン化する、休日以外の観光客獲得に力を入れる等努力を続けてきましたが、この4月から運行縮小となりました。今後団体旅行として乗車するには難しい企画になっていくでしょうから、今回はこれに乗っておきましょう。

上段の「かわせみ やませみ」は2両で1編成。熊本方向に「やませみ」が、鹿児島方向に「かわせみ」が連結されます。

下段の「いさぶろう・しんぺい」は3両編成になっていますが通常は2両編成、内装と塗色が違ってはいませんが同じ車両、これまで増設車両は「かわせみ やませみ」と「いさぶろう・しんぺい」で共有することもありました。



肥薩線は球磨川に沿って走ります。球磨焼酎の球磨です。山と川の間景色の中をディーゼルエンジンの音を響かせながら走る列車に乗っていると、私たちが生きてきた昭和の時代を思い起こしますね。



【 奄美の里 サウス ヴィラ ガーデン 】（ご夕食）

2日目のご夕食はホテルに入る前に「奄美の里 サウス ヴィラ ガーデン」に立ち寄ります。



「奄美の里」は鹿児島港のそばにあり、本日のお宿「城山ホテル鹿児島」から少し距離がありますのでチェックイン前にご夕食という行程にいたしました。ディナーは欧風料理と謳っていますが基本的にフレンチでイタリアンが混じるものです。



とても良い雰囲気 of 夕食会場です。この写真の上部の天井部分が竹組みになっていて、そこに奄美の雰囲気を感じるという室内です。



(カンパチのカルパッチョ)



(真鯛とホタテのシャンパン蒸し)



(牛ヒレ肉のグリル)



(鶏飯・けいはん)

時期により食材の変更の可能性があります。現時点での主なメニューです。地元産の食材をふんだんに使っています。鶏飯は奄美の料理で鶏肉のだし汁がとても美味しいです。地元の食材を欧風に仕立てたお料理、欧風料理と言っている所以です。



また、この施設はおみやげが豊富です。特に奄美のおみやげ、大島紬製品が欲しいかたはこちらでお買いに

なるのが便利です。

【 城山ホテル鹿児島 】（鹿児島市内）



「城山ホテル鹿児島」は、多分皆様は「城山観光ホテル」としてご存じだと思います。4月から名前を変えてこうなります。鹿児島では、No.1です。鹿児島城址の裏山である城山に建つ大規模ホテルのため全体を撮るとしたら下から見上げるしかありません。



第3日目

城山ホテル鹿児島→薩摩金山蔵→「さつま路」(昼食)→天文館(自由散策)→「西郷どん」大河ドラマ館
→鹿児島空港→羽田空港

【 薩摩金山蔵 】(熊本県 いちき串木野市)

「薩摩金山蔵」は、いちき串木野市にある焼酎と、鹿児島では珍しい清酒を造る、濱田酒造株式会社(焼酎の生産量:全国6位)というメーカーが経営しています。何故金山蔵と名乗るのかというと、濱田酒造株式会社が製品の貯蔵庫として使っているのは、本物の金採掘坑道だからです。旧三井串木野金山と言いますが勿論現在金は掘られていません。貯蔵庫に坑道を使うことで一定の湿度・気温の環境が自然に得られ質の良い焼酎の熟成が簡単になりました。また、鹿児島では本来清酒を造れません。暖かすぎるからです。それが坑道を持つことによって出来るようになったという訳です。

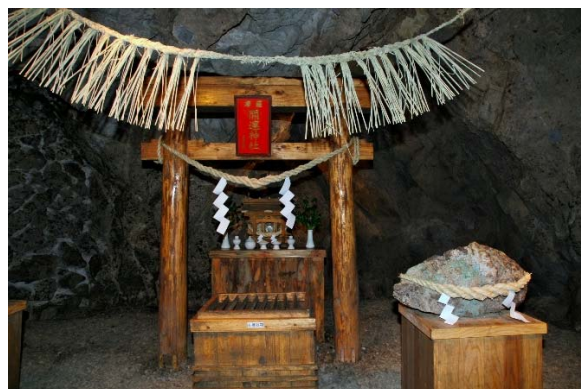


坑道入り口に植えられているのはソテツです。飢饉の時に非常用食料にするよう薩摩藩が栽培を奨励したので鹿児島県内には沢山見られます。でも有毒なので水に良くさらさないと食べられません。田端義男が「島育ち」で、「赤い蘇鉄の、実も熟れる頃」と歌ったあの蘇鉄です。



このトロツコで降りていきます。今年の2月に新しく作られたばかりで綺麗です。右側の写真が運転台です

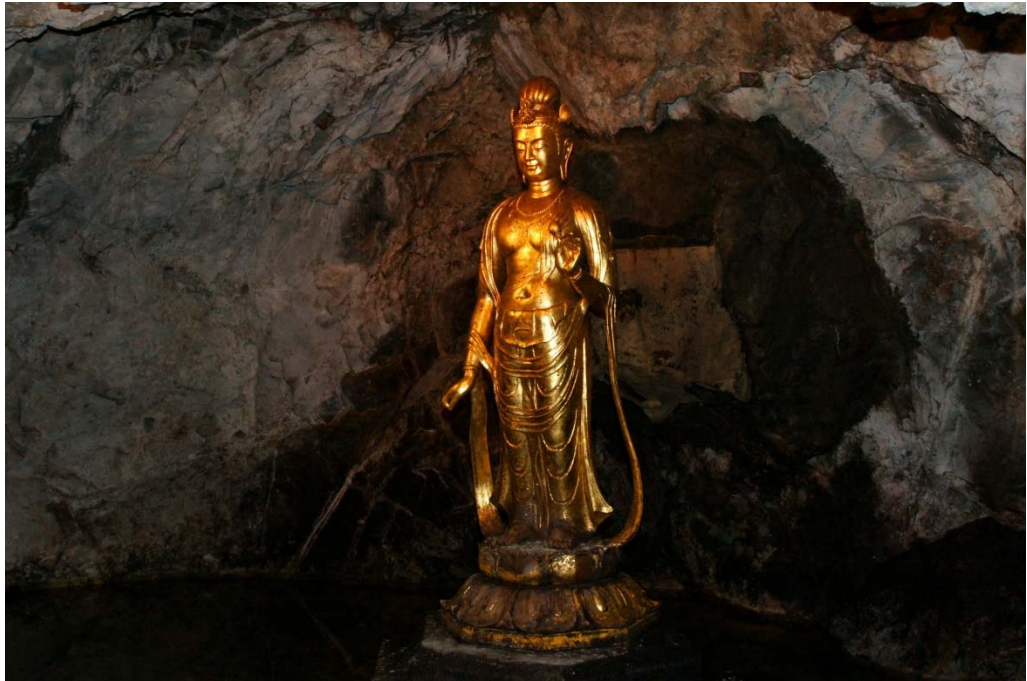
が両脇に客車が連結されているので、前進の時も後退の時も先頭には来ません。しかも横向きに座ります。単線で方向転換が無いのでこういう運用なんでしょうね。



降りると案内されるのが「開運神社」です。鳥居の両側にしめ縄を張った本物の金鉱石が置いてありまして、撫でると金運が付くということです。お試しください。



これが貯蔵庫です。延々と一直線に続いています。階層も沢山あるとか。こちらでじっくりと時間を掛けて焼酎は美味しくなっていきます。壁や天井に黒いホコリのようなものが沢山付いていますが、これが酵母菌です。瓶から逃げ出して酒蔵全体に生成し、その酒蔵固有の構成比を作り出して焼酎の味を独特なものにします。



最後に金の観音菩薩像。金の層の厚みが違うのか、またはライトのせいかな金色が強く、まぶしいほどです。



坑道から帰ってきたところにお店があり、金山蔵の焼酎を試飲できます。お土産にしても豪華なのが好まれるのか金粉入りが多かったです。左側のカップを使ってご遠慮なくご利用下さい。



沢山の焼酎が並んでいます。帰りは飛行機ですから、宅配してもらわないと大変だと思います。

【 さつま路 】（黒豚しゃぶしゃぶのご屋食）



鹿児島市内に戻ってくるとお屋です。今日のお昼は鹿児島特産の黒豚をしゃぶしゃぶで頂きます。「さつま路」は生産者から見てお勧めできるお店とか。



鹿児島黒豚は 18 代藩主島津家久が沖縄から導入したと言われ、江戸時代からその味は日本全国に広がっていったのです。じわっと広がる上品なうまみと甘みが売りと言われていますが、言葉で話しても仕方が無い、目の前にあるんですからとにかく食べましょう。今までの豚肉の概念が変わるかもしれません。

【 天文館 】（ご昼食の「さつま路」から歩いて行けます。天文館では自由散策です。）



「天文館」は鹿児島市の有名商店街です。お値段もリーズナブル。テレビ等で鹿児島を紹介するときは必ずと言うほど取り上げられます。アーケードで雨の日も大丈夫。「天文館」と言われると何かそういう建物が建っているように想像しますがそうではありません。江戸時代に天文・暦の研究所があったのがその名前の由来です。暦が重要だったのは農業に利用できるからです。



その天文館の商店街に立ち寄るのは、お土産を買いやすいからです。このお店は「菓子横丁」と言いますがお勧めです。鹿児島のお土産用のお菓子はほとんどあるのではないのでしょうか。しかも好きな種類を自分で選ぶことができます。また、疲れたら2階に喫茶店もあります。同じように好きなお菓子を選んで食べられます。



入り口を入った左側からずっとお菓子が並んでいますから、好きなものを選んで箱に並べ最後に精算し

ます。



選ぶのが面倒なら箱入りから選ぶことも出来ます。「かるかん」は鹿児島県の代表的お菓子。米粉と蒸しイモで出来た皮の中にあんこが入っています。「西郷どん」でも島津斉彬が食べていたり、競争に勝った子供達に与えられたりしていました。当時はあんこは入っておらず白だけのものでした。イモの自然な甘みがあります。今でも中身の入らないかるかんは売っています。



「あくまき」は鹿児島県独特です。餅米をたらこのような形に握ったものをきなこ砂糖で食べます。昔は笹にくるんでありました。今ではそれを真空パックにして売っています。



これも包んでありますから外からはなんだか分からないお菓子です。正体は棒状の蒸しようなんのようなお菓子です。「ような」というのは関東の蒸しようなんと違って、もう少し堅く甘さがあっさりしているからです。ようなんが苦手な人でも、男性でも、かなり食べられると思います。子供の頃は贅沢品でした。



このお店は「天文館むじゃき」と言いまして有名店です。「白くま」というかき氷を食べた方は多いと思いますが、その元祖が写真右の人形「むじゃきっこ」をマスコットにした白くまかき氷だと言われています。訪問日がもし暑かったら食べてみて下さい。



薩摩揚げは、さつまと名前にあるとおり名産です。おみやげもセットになったものが沢山売られています。



焼き芋も売っていますね。おみやげにはちょっと考えてしまいますが鹿児島にとっては主食同様であったものです。天文館のお店については、バスの中で地図をお配りする予定です。自由散策ですから集合時間にだけは注意していただいて、探検して下さい。

【 西郷どん 大河ドラマ館 】



西郷どんの大河ドラマ館に立ち寄ります。ビデオシアター、展示、お土産店があります。今は展示が少ないのですが、放送が終わったものから撮影現場から移されて順次展示されて行くそうです。



【 鹿児島空港⇒羽田空港 】



復路は鹿児島空港から羽田空港へ。全日本空輸628便16:40発、羽田到着予定は18:15着予定で飛行時間は往路より20分ほど短くなっています。使用機材は往路と同じボーイング767-300の予定です。お疲れ様でした。ご自宅まで気をつけてお帰り下さい。

東京シティの国内旅行は、「良い宿・良いお湯・良い食事」を目指して毎年開催しております。

訪問地の有名店、有名旅館、有名ホテルを厳選して質の高いご旅行を提供します。ご昼食も地元の有名店を選んでいきます。

皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

出発日について 各店舗のご出発日は下記の通りです。

出 発 日	店 舗 名
4月25日(水)	新小岩支店、神楽坂支店
5月 7日(月)	赤羽支店、石神井支店
5月16日(水)	小山支店、東四つ木支店、砂町支店
6月6日(水)	本店、池袋本町支店、中野支店
6月7日(木)	蔵前支店、秋葉原支店、深川支店、牛込柳町支店
6月18日(月)	堀切支店、京成小岩支店、浦安支店
6月19日(火)	野方支店、亀有支店、玉川支店、豪徳寺支店、江戸川橋支店
6月20日(水)	東王子支店、菊川支店、高田馬場支店、京橋支店
6月21日(木)	押上支店、日本橋支店、志村支店、新柴又支店

* ご出発日のご都合の悪い場合は、他店舗の出発日を選ぶこともできます。

募集人員 : 360名(先着)

旅行代金 : 127,000円(2名一室の場合)

* 1名一室の場合の追加料金は25,000円です。

【 調査・調整 】

東京シティ信用金庫 理事長 小池 誠一



東京シティ信用金庫 理事地域戦略統轄本部長 渡邊 正之



名鉄観光サービス(株)東京中央支店 支店長 比留間 啓介



名鉄観光サービス(株)東京中央支店 営業係長 東崎 英行



<http://www.shinkin.co.jp/to-city/>